



the Association
for Studies of
Culture and
Representation

12

表象文化論学会
第12回大会

2017.7.1土-2日
アーツ前橋
シネマまえばし
前橋市中央公民館

会費 | 会員=無料 / 非会員=1,000円 (シンポジウムは無料公開) 事前予約不要

*3会場は隣接しています。当日は、前橋市中央公民館(前橋市本町2-12-1 前橋プラザ元気21内) 5階に設ける大会受付にまずお越しください。

表象文化論学会第12回大会プログラム

7.1^{〔土〕} 13:30-15:30

場所 | シネマまえばし

開会の挨拶

住友文彦（アーツ前橋）

シンポジウム パフォーマンスと／しての展示

門林岳史（関西大学）

中島那奈子（ダンス研究、ダンスドラマツルク）

星野太（金沢美術工芸大学）

三輪健仁（東京国立近代美術館）

司会 | 加治屋健司（東京大学）

16:00-18:00 研究発表 | 1日目

場所 | 前橋市中央公民館5階501～504学習室（パネル4のみ17:30まで）

パネル | **01**

501学習室

聴取をつくる——聴覚／音響文化の諸場面

「環境」からの逸脱——1970年代日本の現代美術における音響技術
金子智太郎（東京藝術大学）

モジュレーションと音像——S・P・トンプソンの両耳聴研究をめぐって
福田貴成（首都大学東京）

労働歌の構造と身体動作——野沢温泉村道祖神祭りの胴突唄
細馬宏通（滋賀県立大学）

コメンテーター | 大橋完太郎（神戸大学） 司会 | 金子智太郎（東京藝術大学）

パネル | **02**

502学習室

日本映画におけるマイナーの系譜 ——クィア理論を拠りどころにして

2010年代の日本映画において
ゲイ男性を描写すること／演じることについて
久保豊（京都大学）

小津映画をクィアする——『彼岸花』にみるモノたちの潜勢力
伊藤弘了（京都大学）

『夏子の冒険』における娯楽的演出と女性表象
須川まり（奈良県立大学）

コメンテーター | ミツヨ・ワダ・マルシアーノ（カールストン大学）

司会 | 木下千花（京都大学）

パネル | **03**

503学習室

インタラクティブなメディアを導入した 国際コミュニケーション

映像と他者理解——アイヌ民族を例に

亀田裕子（ロンドン大学東洋アフリカ研究学院）

プラットフォームとアトラクション・マネジメント——ユーザーの視点・視線管理
難波阿丹（聖徳大学）

日本と韓国の大学でのグローバル教育の現状
——ニューメディア利用を中心に

李ウォンギョン（上智大学）

コメンテーター | 米山かおる（首都大学東京） 司会 | 李ウォンギョン（上智大学）

パネル | **04**

504学習室

民話・伝説・言い伝え・都市伝説が 表象する「場所」のありようについて

炭坑記録画家・山本作兵衛が描いた『ヤマト狐』が表象するもの
鳥飼かおる（九州大学）

「裏日本」の美学と地域の表象
アレクサンダー・ギンナン（鳥取大学）

コメンテーター | 向後恵里子（明星大学） 司会 | 向後恵里子（明星大学）

18:30-21:00

学会賞授与式および懇親会（会員および同伴者のみ）

場所 | 旧白井屋ホテル1階

7.2^{〔日〕} 10:00-12:00

研究発表 | 2日目午前

場所 | 前橋市中央公民館5階501～504学習室

パネル | **05**

501学習室

芸術の自然史——無機的なものの生命化の位相

アナロジーから分類へ

——啓蒙主義時代の建築理論と自然史におけるモルフォロジー

小澤京子（和洋女子大学）

水晶とカタドラル——ヴィオレ・ル・デュクの構造概念

後藤武（後藤武建築設計事務所）

結晶、機械、芸術作品

——ジル・ドゥルーズ「非有機的生命」概念の対象における差異と反復

石岡良治（青山学院大学）

コメンテーター | 岡田温司（京都大学） 司会 | 後藤武（後藤武建築設計事務所）

パネル | **06**

503学習室

エンボディード・ポストヒューマニズム

ポストヒューマン的身体としてのゾンビ

福田安佐子（日本学術振興会／京都大学）

身体の拡張と身体改造——ポストヒューマン化はどこまで可能か
大貫菜穂（京都造形芸術大学）

身体解釈と医療実践の共進化

——近代日本の非正統医療における近代以降の身体

田野尻哲郎（東京大学）

コメンテーター | 小泉義之（立命館大学） 司会 | 篠木涼（立命館大学）

パネル | **07**

504学習室

戦争というトpos——占領から解放へ

「ペンを持つ手」グループの出版物におけるテキストとイメージ
進藤久乃（松山大学）

ジャン・ポーランにおける政治と文学——対独協力作家の肅清をめぐって
門間広明（早稲田大学）

サミュエル・ベケットの人間論

菊池慶子（早稲田大学）

コメンテーター | 安原伸一郎（日本大学） 司会 | 千葉文夫（早稲田大学名誉教授）

13:00-13:45

総会（会員のみ）

場所 | 前橋市中央公民館5F 501+502学習室

14:00-16:00

研究発表 | 2日目午後〔1〕

場所 | 前橋市中央公民館5階501～504学習室

パネル | **08**

501学習室

荒川修作＋マドリン・ギンズ

——22世紀の身体論にむけて

荒川＋ギンズと体験過程理論——意味創造の基盤について

三村尚彦（関西大学）

22世紀の身体論 荒川＋ギンズとともに
——受容し変化する能力としての主体性

染谷昌義（高千穂大学）

切り閉じという技術——荒川・ギンズの手続き的知の試み

稲垣諭（東洋大学）

コメンテーター | 小林康夫（青山学院大学） 司会 | 門林岳史（関西大学）

パネル | **09**

503学習室

事件、捜査、物語——警察の表象

写真と「真実」——犯罪捜査の歴史を手がかりに

橋本一徑（早稲田大学）

自殺の「発見」と変容——警察と死の社会的意味の歴史と現在
貞包英之（立教大学）

公安とは何か——事件の不在と透明な組織

熊木淳（尚美学園大学）

コメンテーター | 高桑和巳（慶應義塾大学） 司会 | 橋本一徑（早稲田大学）

パネル | **10**

504学習室

映画をきく

——スタジオ・システム崩壊までの日本映画の音楽

浪曲映画と戦前日本の映画音楽

柴田康太郎（早稲田大学）

小津安二郎『麦秋』におけるオルゴール音楽

正清健介（日本学術振興会／一橋大学）

戦後日本映画のスタジオ・システムと音楽家——作曲家・芥川也寸志を例に
藤原征生（京都大学）

コメンテーター | 仁井田千絵（早稲田大学）

司会 | 正清健介（日本学術振興会／一橋大学）

16:30-18:30

研究発表 | 2日目午後〔2〕

場所 | 前橋市中央公民館5階501～504学習室（パネル11のみ19:00まで）

パネル | **11**

501学習室

萩原朔太郎の表象空間——その百年

『月に吠える』と戦争——日露戦後／世界戦争期文学としての『月に吠える』
安智史（愛知大学短期大学部）

萩原朔太郎の〈天上〉志向——〈光〉〈闇〉そして〈影〉
勝原晴希（駒澤大学）

「青猫・以後」と郷愁——「のすたるぢや」の歴史性

熊谷謙介（神奈川大学）

文化としての〈手品〉と萩原朔太郎の詩学
栗原飛宇馬（萩原朔太郎研究会）

コメンテーター | 田中純（東京大学） 司会 | 松浦寿輝（東京大学名誉教授）

パネル | **12**

503学習室

人新世／アントロポセンと人文科学

「ポスト」から「クトゥルフの世」へ——ハラウェイにおける人間概念批判と連帯
猪口智広（東京大学）

ダークインフォメーション——超人世あるいはポストニヒリズムの倫理感性的方便
原島大輔（東京大学）

計算的理性と直観の盲点——1930年代のエピステモロジー的形象をめぐって
セバスチャン・プロイ（東京大学）

コメンテーター | 北野圭介（立命館大学）

司会 | 飯田麻結（ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ）

パネル | **13**

504学習室

芸術家と自己表象

そして彼は神話になった——芸術家のイメージ形成における評論・伝記の寄与
片桐亜古（札幌大谷大学）

ジョルジョ・モランディの自己表象
——チェーザレ・ブランディ「モランディの歩み」を通して
遠藤太良（京都大学）

古典理解の顕示を通した自己イメージ戦略

——Ch＝V・アルカンによるモーツァルトへの言及を例に

村井幸輝郎（日本学術振興会／京都大学）

コメンテーター | 岡本源太（岡山大学） 司会 | 杉山博昭（早稲田大学）

*プログラムは予告なく変更されることがあります。詳細及び最新情報は表象文化論学会ホームページ（http://www.repre.org/）をご覧ください。

問い合わせ先 | 表象文化論学会第12回大会実行委員会

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学総合文化研究科表象文化論研究室内

FAX 03-5454-4336 E-mail conference@repre.org

URL http://www.repre.org/